



## 東京都八丈町から視察団が来市 光と野球によるまちおこしを学ぶ



LEDを使ったまちづくりや野球のまち阿南の取組を学ぼうと、東京都八丈町の山下奉也町長をはじめ、町職員など5人が阿南市を訪問しました。野球でまちの活性化を図ろうとする八丈町は、かねてから阿南市の取組に関心を持ち、町議会の視察や野球観光ツアーへの参加などで交流を深めてきました。訪問団は、阿南の夏まつりに参加し、阿波踊り競演や野球グッズ展示会などを見学した後、西日本生涯野球大会の運営方法などを視察。四国霊場第21番札所・太龍寺や、電力会社のPR館なども訪れました。山下町長は、「八丈町は、旅費や天候などに課題はありますが、まちの野球熱が高く、観光資源にも恵まれています。阿南市の取組を参考に、実現可能な大会誘致に知恵を絞りたいです。」と話していました。

## 那賀川町中島地区に津波避難ビル (株)レーザーシステムの社屋屋上を利用



7月30日、市は株式会社レーザーシステムとの間で、建物を津波避難場所として一時的に使用できる協定を締結しました。この協定は、阿南市内で津波が発生し、または発生する恐れがある場合、那賀川町中島周辺住民の一時避難場所として建物の屋上部分を開放することにより、地域住民の安全を確保しようとするもので、約500人の避難が可能です。屋上部分を使用できる期間は、津波警報等が発表された時から警報等が解除され安全が確認された時までです。  
屋上部に高さ約1.7mの安全柵や、社屋北側には屋上に通じる外階段が設置されています。外階段は、普段は立ち入りが禁止されていますが、非常時には誰でも屋上に上がれる工夫がなされています。

## 24チームが参加！「野球のまち阿南 第1回 全日本学童軟式野球大会」が開催される



阿南市制施行55周年を記念して「野球のまち阿南 第1回全日本学童軟式野球大会」が、8月1日からJ Aアグリあなんスタジアムを主会場に、北は滋賀県、南は沖縄県から24チームが参加して行われました。  
開会式では、富岡小学校金管バンドクラブの演奏に乗せて選手が力強く入場。加茂谷若鮎クラブ主将の中西悠人さん（吉井小6年）が歓迎のことばを述べ、富岡スワローズ主将の山田真司さん（富岡小6年）が「最後まで諦めず正々堂々とプレーすることを誓います。」と元気よく選手宣誓しました。大会は3日間で23試合が行われ、相生クラブ（徳島県代表：那賀町）が優勝、富岡スワローズ（開催地代表：阿南市）が準優勝しました。

## 野球交流訪問団がウランバートル市と 在モンゴル日本大使館を表敬訪問



岩浅市長を団長とする阿南・モンゴル野球交流訪問団総勢21人が、7月24日、モンゴルの首都ウランバートル市の市役所と日本大使館を表敬訪問しました。  
欧州に外遊中のパットワール市長に代わって対応したオチルパット副市長は「経済成長が急速に進む一方で人口増に伴うごみ処理や石炭火力発電による大気汚染が大きな問題となっている」と説明。岩浅市長は「阿南市には日本で一番優れた石炭火力発電所があり、最新鋭のごみ焼却場を建設している。パットワール市長にはぜひ阿南市に来ていただきたい。」と話すと、副市長は「モンゴルの都市づくりは日本をお手本にしている。阿南市を訪れたい。」と応じ、今後の交流に意気込みを見せました。

## 「おっぱしょ」のお地蔵さん 地元の民話を子どもたちに語り継ぐ



子どもたちにも地元の民話を知ってほしいと、8月9日、柳島町で「お地蔵さんのお祭り」が行われ、中野島保育所や中野島小学校の児童が「シャボン玉」などの歌やお地蔵さんの民話についての自作の紙芝居を披露し、また、子どもたちには地元の皆さんによってお菓子が配布されました。  
柳島町南別当のお地蔵さんは昔、力自慢の若者が「おっぱしょ(=背負ってくれ)」との声で背負ったという民話から、「おっぱしょ」のお地蔵さんとして長年親しまれています。  
2年目となるこの催しを主催した柳島おっぱしょ地蔵保存会代表の伊勢敏雄さん(81歳)は、「地元の民話を守り、語り継いでいくことは大人の義務。子どもたちが喜んでくれてよかった。」と話していました。

## 徳島阿南シティホープ 中学生ジュニアの部で全国大会初優勝



兵庫県淡路市で開催された硬式野球の全国大会「第1回ヤングリーグジュニア選手権大会」の中学生ジュニアの部で、東四国支部代表として出場した「徳島阿南シティホープ」が予選を勝ち抜いた16チームの頂点に輝きました。  
7月28日の決勝戦では、今まで一度も勝利できなかったという強敵、全播磨硬式野球団(兵庫西支部)と対戦。試合終盤に逆転すると、最終回は相手の攻撃を抑えきり勝利。主将の千里卓矢さん(羽ノ浦中2年)は「優勝は監督やチームメートの皆のおかげ。」と悲願の初優勝について喜びを語りました。また、大会最優秀選手には同チームの優勝に大きく貢献した横手章吾さん(阿南中2年)が選ばれました。  
阿南シティホープの皆さん、おめでとうございます。

## 阿南光のまちステーションプラザ 入館者が6万人に到達



平成18年7月の開館以来、阿南駅前のシンボルである「阿南光のまちステーションプラザ」の入館者が6万人に到達し、7月26日、記念セレモニーが行われました。  
記念すべき6万人目は、初来館だという小土手 萌さん(富岡小6年)。岩浅市長から花束と記念品を手渡された小土手さんは、「まさか自分が6万人目なんて思わなかったのが本当に驚きました。」と少し緊張したようです。同施設内のブースで市名産の竹を生かした人形作りを行っている阿南市竹人形伝承会理事の松崎 孝さんは「阿南光のまちステーションプラザでは、阿南市内で輝いている方、頑張っている方の作品をたくさん展示しています。来年は7万5千人をめざし、これから来館者を笑顔で迎えたい。」と意気込んでいました。

## 400本の「ひまわり」でもてなそう 市民ボランティアや高校生が種まき



10月に本市で開催される日本女性会議の参加者を市の花「ひまわり」でもてなそうと、8月7日、市民ボランティアや高校生など21人が新野高等学校で種まきを行いました。  
参加者は、あらかじめ用意されたポットにスコップで土を入れ、表土から約1cmの深さに種をまきました。ひまわりは成長すると50cmほどになり、枝分かれして花を咲かせます。1粒1粒丁寧に種をまいていた谷 洋明さん(2年・新野町)は、「自分たちの力できれいに花を咲かせ、阿南市を訪れる人々を明るくもてなしたいです。」と話していました。  
ひまわりはおよそ55日で開花する予定で、実行委員会では、スポーツ総合センター入り口付近に100プランター(400本)を設置することにしています。